

福島県連
会報特別号

ふくしまをつたえる新聞

編集・発行／福島県高等学校文化連盟
同連盟新聞専門部
963-8017 福島県郡山市長者2-3-3
福島県立安積黎明高等学校内
電話 024-991-7313

この白陽報は、環境にやさしいFSC®認証紙と「紙へリサイクル可」
植物用インクを使用しています。



震災から未来へ



復興進む福島の今 高校生が発信

2011年3月11日、三陸沖で国内観測史上最大、マグニチュード9.0の大地震が発生し、福島県を含む東北は甚大な被害に見舞われた。とりわけ福島県は地震、津波、原子力災害により、10年後の今もなお約3万5千人（6月現在）が県内外に避難している。さらに福島県の農作物、水産物をはじめとする産品が、風評被害によって厳しい状況に置かれている。そのような中で福島県内11校の高校新聞部（委員会）は、震災の記憶を再確認しながら、「ふるさと福島」の今を、高校生の視点で取材し、国内外に広く伝えようと集った。本紙を通して、県内外に広がる姿や、県内各地の魅力など発信し、東京オリンピック・パラリンピックを機にもっと福島を知ってもらいたい、そして福島を訪ねてほしい。その願いを込めて本紙を作成した。（白河高校出版委員会）

一步

2012年、南相馬の海岸に行った。津波の被害を受けた浜には、がれきの山が点在し、それを片付けるための重機でいっぱいだった。震災当時小学校2年生だった私は、その光景におののいた。あのがれきは誰かの家だったのかもしれない。学校や公園、そこで暮らしていた人の、思い出のあった場所だっただろうと思った▼東日本大震災から10年が経ち、多くの浜でがれきはほとんど取り除かれた。道路も整備され、住宅が建っている地域もある。あんなにも荒れていた浜は、人の手により元の姿になった。さらに、復興の象徴とされている「サイレスジヤ」漁業の再開など、元の生活に戻りつつあることが体感できる。福島は、少しずつ復興に向かっていく▼しかし、課題は多い。双葉町や大熊町などの避難指示は、いまだに解除されていない。東京電力福島第一原子力発電所の廃炉作業は長期間に及ぶだろうし、今年4月に決まった処理水の海洋放出についても、風評被害が懸念される▼だが、もはや私たちはあの時のように、ただ大人たちの仕事を見守るだけの存在ではない。震災当時は、さまざまな不安から行動することをためらったり、津波や地震のショックで足をすくませていたが、福島の現状を知り経験を積んだ今こそ、自ら行動を起こすことができる。いきなり大きなことに取り組み必要はない。1つ1つ、できることから取り組みんでいきたい。

（安積高校新聞委員会 阿部拓真）

写真で伝える東日本大震災 （各校が資料画像等から提供）



津波に流される家屋（上写真 2011年3月11日撮影、いわき市平豊間地区 磐城高校提供）

津波によって海岸から数キロ内陸まで打ち上げられた漁船。その横を車が通る（右写真 2011年3月23日撮影、相馬市内 相馬高校提供）



原発事故で休校となり、8年後も当時のままの姿で残る浪江高校の昇降口（上写真 2019年12月撮影 郡山北工業高校提供）



浪江町立請戸小学校は15歳超の津波に襲われたが、82人の児童は全員無事に避難した。県内初の震災遺構として保存される予定となっている（2019年12月撮影 郡山北工業高校提供）

東日本大震災ドキュメント

2011年(平成23年) 3月11日
14時46分、三陸沖でM9.0、最大震度7、国内観測史上最大規模の地震発生。大津波が東北太平洋岸を襲う。東京電力福島第一原子力発電所1～5号機全交流電源喪失、炉心冷却できず。政府、半径30km圏内避難指示、3～10km圏内屋内避難指示(その後、1～3号機で炉心溶融)
3月12日
第一原発1号機水素爆発。避難指示半径20km圏内に拡大。14日に3号機も水素爆発
3月15日
第一原発4号機で水素爆発。20～30km圏内14万人に屋内退避指示。25日、20～30km圏内自主避難要請
4月5日
福島県教育委員会、避難区域内の県立高校9校(後10校)にサテライト校設置を表明。在籍予定3千4百人
4月22日
第一原発半径20km圏内が警戒区域に。20km圏外でも計画的避難区域、緊急時避難準備区域を指定
2012年(平成24年) 1月
除染本格化。5月、県民の避難者が最大16万5千人に
2014年(平成26年) 1月
福島第一原子力発電所の廃炉決定(一部2012年決定)
2015年(平成27年) 4月8日
福島県立ふたば未来学園高校、広野町に開校
9月5日
楢葉町、避難指示解除。16年7月、南相馬市一部解除
2017年(平成29年) 3～4月
浪江町、富岡町など避難指示区域一部解除。4月1日、浪江など避難区域内の県立高5校休校(生徒募集停止)
2019年(平成31年) 4月20日
震災直後から原発事故の収束拠点になっていたスボーツ施設「ヴァイレッジ(楢葉・広野町)」が全面再開
2020年(令和2年) 3月14日
被災地と首都圏結ぶJR常磐線、9年ぶり全線再開通
2021年(令和3年) 3月11日
震災から10年。関連死を含めた全国死者・行方不明者約2万2千人(福島県約4100人)、避難者約4万1千人(同約3万6千人)
3月25日
東京五輪聖火リレーが「ヴァイレッジ」出発。地元高校生ら希望の灯つなぐ。コロナ禍で1年延期して実施(郡山北工業高校報道委員会)

ふたば未来高生 荒川さん

感謝込め希望の灯つなぐ

新型コロナウイルス感染症拡大によって延期されていた東京五輪の聖火リレーが3月25日、福島県から始まった。本県復興の象徴「ヴァイレッジ(広野・楢葉町)」を出発したリレーは、7月23日の開幕に向け、121日をかけて全国47都道府県を巡っている。左写真は初日に広野町を走る福島県立ふたば未来学園高校の荒川礼奈さん(当時2年)。同町出身で県外への避難体験を持つ荒川さんは、所属する陸上部の仲間らからの応援を受け、感謝の思いを含め希望の灯をつないだ。(撮影 郡山北工業高校報道委員会 渡邊大一)



桜の名所として知られる富岡町夜の森地区。震災から10年を経ても避難指示区域は残り、フェンスが桜並木を分断する(写真は震災9年目の2020年4月撮影 郡山北工業高校提供)